

今後の進め方

第3回安全走行支援サービス参宮橋地区社会実験検討会資料

2006年9月26日

安全走行支援サービス参宮橋地区社会実験事務局

目次

- ・参宮橋社会実験の今後の方針(案)
- ・参考資料

参宮橋社会実験の今後の方針(案)

これまでの経緯

社会実験 I (2005年3～5月)

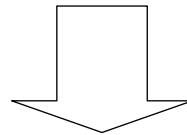
3メディアVICS対応カーナビを活用し、一般ドライバーにサービスを実施

- ・サービスによる車両挙動の安全側への変化の検証
- ・一般モニターによるドライバー受容性評価(弊害は見られない)

社会実験 II (2005年9月～)

一般ドライバーに長期間サービスを実施

- ・長期的に事故削減効果が見られ、サービスが効果を継続的に発揮している可能性
- ・ドライバーは継続的にサービスを受容

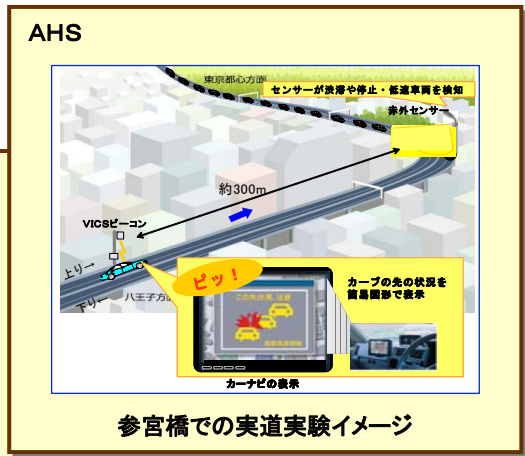


参宮橋の今後(案)

- ・首都高の社会実験として継続
- ・データは継続して収集

「IT新改革戦略」(2006年1月)のスケジュール

- 2006年早期に、安全運転支援システムの実用化に係る官民一体の連携会議を設立
- 2008年度までに、安全運転支援システムの大規模な実証実験実施、検証、評価
- 2010年度から、安全運転支援システムを事故多発地点を中心に全国展開



IT新改革戦略 抜粋

世界一安全な道路交通社会
— 交通事故死者数5,000人以下を達成 —

実現に向けた方策

1. 交通事故の未然防止を目的とした安全運転支援システムの実用化を目指し、**2006年の早期に官民一体となった連携会議**を設立し、複数メディアの特性の比較検討を含む効果的なサービス・システムのあり方や実証実験の内容について検討する。
2. 上記検討を踏まえ、**2008年度までに**地域交通との調和を図りつつ特定地域の公道において官民連携した安全運転支援システムの大規模な実証実験を行い、効果的なサービス・システムのあり方について**検証**を行うとともに、事故削減への寄与度について**定量的な評価**を行う。
3. **2010年度から**安全運転支援システムを事故の多発地点を中心に**全国への展開**を図るとともに、同システムに対応した**車載機の普及**を促進する。
4. 歩行者の交通事故死者数削減に寄与するための「歩行者・道路・車両による相互通信システム」(注2)について、官民連携により2010年度までに必要な技術を開発する

<後略>

運用・実証実験のスケジュール（イメージ）

スマートウェイ推進会議作業部会資料より

		2006年度 (H18年度)	2007年度 (H19年度)	2008年度 (H20年度)	2009年度～ (H21年度～)
ITS推進協議会 (IT新改革戦略)		夏 大枠決定	冬 詳細合意	秋	全国展開
実施地域	東京	検討	実験準備 社会実験 (試行運用)	プレ実験	実証実験 本格運用
	A地域	検討	実験準備 準備	プレ実験	実証実験 本格運用
	B地域	検討	実験準備 準備	プレ実験	実証実験 本格運用
	C地域	検討	実験準備 準備	プレ実験	実証実験 本格運用
	D地域	検討	実験準備 準備	プレ実験	実証実験 本格運用
	全国				全国展開

:スマートウェイ試行運用
 :IT新改革戦略の実証実験も想定

2006年度からの首都高速における社会実験のイメージ

